

青梅市文化財ニュース

第 4 号

昭和62年12月 1日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

千ヶ瀬バイパスが大横町（国道 411 号線）につきあたる少し手前、バイパスに沿って右手に常保寺（臨済宗建長寺派）があります。門をくぐると正面にコンクリート造りの方丈、方丈左手、墓参者用水裏手に「中原章之墓」（市指定文化財・史跡）があります。

中原 章之墓

（青梅市滝の上・常保寺）市指定文化財・史跡

江戸中期に常保寺に住し、江戸文化や京都の文化を伝え、根岸典則・

小峰峯真等の優れた門下生を出した、正に青梅文化の生みの親ともいうべき「中原章」のお墓です。正面には「中原章之墓」と、左右裏の正面には常保寺十一世・支元の撰による中原章の墓碑銘が、門弟の小峰峯真の手で記されています。

またその左隣には、江戸後期に狂歌をよくした正岡玄道の墓もあります。

お寺のかたの許可を得て、方丈の裏手に回って見ましょう。素敵な池をあしらった立派な庭があります。このあたりは河岸段丘の崖下に位置しているので、湧水が豊かなところなのです。この池のほとりに、ほんの 50cm 程の青みかかった自然石の碑がたっています。「小菰庵支元句碑」です。小菰庵支元は常保寺十一世住職で、学問が深く、詩・俳諧をよくした名僧です。その支元の句、「とりとめぬ遊び心や花くもり」と刻してある碑です。

奥多摩街道（国道 411 号線）沿い、JR 青梅線宮の平駅と日向和田駅の間右手側に明白院（曹洞宗）があります。ここの山門は茅葺きで、大変古色なものです。言い伝えによると、「楯の板」に居を構えていた田辺清右衛門（武田氏の旧臣で、のち徳川家に仕えた人）の館の遺構と言うことです。青梅市有形文化財に指定されています。またここの枝垂れ梅は、樹齢は若いが大変美しく、毎年早春（2 月ごろ）の開花時期には、道行く人の目を楽しませてくれます。

その他、旧青梅町では、旧万年橋を描いた明治時代の洋画家・大下藤次郎の水彩画（青梅市立美術館蔵）、織繡曼荼羅・延命寺棟札（共に延命寺蔵）が市指定有形文化財に、また物見櫓（矢倉台）が市史跡に指定されています。

文化財ミニミニニュース

青梅市遺跡調査会では、丸山遺跡（青梅市今井）の発掘調査を行っています。この付近は、霞川流域の最も規模の大きな縄文時代の遺跡として以前から知られていたところですが、この度、宅地化の計画による緊急調査となったものです。現在、7 世紀後半のものと推定される住居跡数基の発掘と、縄文中期の住居跡数基の確認がなされています。発掘は、春まで続く予定です。

（文責 野村愼三郎）